

第2回 糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会の開催について

1. 日 時 平成29年4月3日（月） 13時30分から16時
2. 会 場 ヒスイ王国館2階ホール
3. 出席者 裏面の委員名簿のとおり
4. 委員からの主な意見

○全体

- ・ いろいろな施策があるなかで、被災地とその周辺など地域的な整理、短期・中長期など時系列的な整理が必要ではないか。

○災害に強いまち

- ・ 被災区域の不燃化に向けて、本町通りをモデル的に位置付け、周辺に波及させていくことも必要ではないか。
- ・ ガス検診と高齢者の見守りなどの連携事例にあるように、火災に関しても新しい情報技術によってできるものがないか検討が必要ではないか。
- ・ 被災地に消防団車両の格納庫がなかったため、消防団の拠点化とあわせ格納庫の検討が必要ではないか。
- ・ 事業所にとってメリットがあり、団員が消防活動しやすい環境を作ることが団員確保にもつながるのではないか。

○賑わいのあるまち

- ・ 公園や道路の活用はまちづくりの最先端。公の施設の魅力と民間の稼ぐ力を組み合わせることで、お互いの効果が高まる。
- ・ 成功している事例では1人のキーマンや組織がまちづくりをけん引している。継続してタウンマネジメントできる仕組みづくりが必要。
- ・ 施設の配置と歩行動線、車の流れなど、まち全体のフレームを打ち出していくことが必要ではないか。
- ・ 人が来るための仕組みづくりが先にあって、その後に人が来る施設を検討していくべき。施設（モノ）を使ってどういう事（コト）をするかが重要。
- ・ 市外への消費の流出を防ぐこともさることながら、市外からの消費の流入を呼び込むことを考えていくべきではないか。

○住み続けられるまち

- ・ 共同住宅などは、イメージがしやすいように被災者の視察を検討してはどうか。
- ・ 共同住宅は、公共交通機関に近いことが望ましい。また、必ずしも大規模なものではなく、小さいものを少しずつという考え方でもよい。

糸魚川市駅北復興まちづくり計画検討委員会 委員名簿

	氏 名	所属など	
1	江口 知章	新潟経済社会リサーチセンター研究部長（賑わい）	有識者
2	岡崎 篤行(欠)	新潟大学工学部建設学科教授（景観）	
3	関澤 愛	東京理科大学大学院教授（都市防火）	
4	○中出 文平	長岡技術科学大学副学長（都市計画）	
5	磯貝 正子	個店の魅力アップ女性の会 会長	市内関係団体代表者
6	◎木村 英雄	糸魚川市 副市長（復興担当）	
7	倉又 孝好	糸魚川市社会福祉協議会 会長	
8	倉又 康	糸魚川青年会議所 監事	
9	小坂 功	糸魚川広域商店街 会長	
10	齋藤 伸一	被災4区 区長代表 大町区長	
11	斉藤 直文	糸魚川市消防団 団長	
12	杉田 康一	新潟県建築士会糸魚川支部 支部長	
13	山岸 美隆	糸魚川商工会議所 副会頭	
14	○山下 建夫	糸魚川市観光協会 会長	

※有識者・市民関係者別に、五十音順

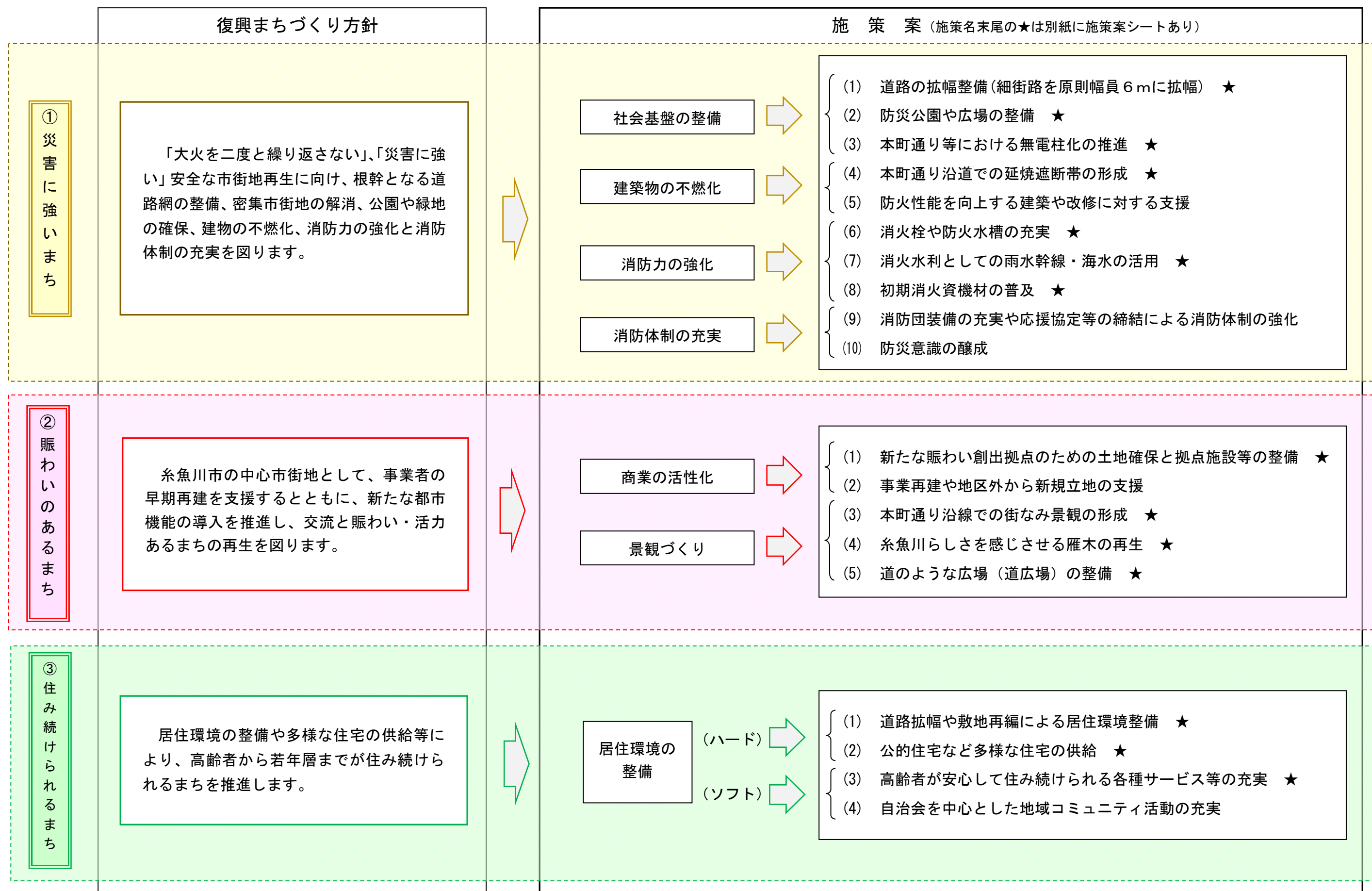
※委員氏名の◎は委員長、○は副委員長、(欠)は第2回委員会欠席。

議事（１） 住民意向調査や団体等からの主な意見

意見のうち★マークは、計画検討委員会構成団体から寄せられたもの

1. 災害に強いまち	2. 賑わいのあるまち	3. 住み続けられるまち
●建物の不燃化等 ★本町通りの延焼遮断帯化 ・隣地境界からの離隔も必要。 ・再建の際には消防設備やスプリンクラー設置の義務化 ★周辺の準防火地域でも道路拡幅を行い、防耐火性能のある住まい等に改築・回収を誘導する ★密集市街地解消など、被災エリア以外の防災対策 ●消防水利 ★大雨になると本町通り商店街の一部で排水の便が悪くなる場所もあるため、排水用途を兼ねた巨大防火対策用貯水槽を整備。 ・防火用水の巨大貯水槽設置（公園下活用） ・消化水路、消火栓、防災壁整備、家庭での初の期消火の充実 防災モデル市街地宣言のまちづくり（視察の受入による交流人口増） ・防火水路が必要。 ★奴奈川用水・城の川を消火用水として活用する ・奴奈川用水は常に水を流し、取水口から取水できるようにする。 ●オープンスペース・緑地帯 ・防災拠点としての公園整備 ・防火対策として緑・木は重要。（椿は火に強い） ・イチョウの木は耐火性があるとのこと。イチョウの木があれば火をとめられたかもしれない。 ・大きな木が足りない。オープンスペースに樹木を植栽すると良い。 ・糸魚川独特の風向きに合わせた並木も必要。 ★防火樹のまちづくり（さざんか、椿、マサキ等） ★街の景観美と防火林の機能を両立する植栽と自然水利の活用 ●社会基盤 ・大型の消防 自動車の入れる道路整備 ・ ●その他 ★地域の建築士、工務店や地域木材を利活用した災害に強い循環型のまちづくり。 ★復興視察を受け入れる防災モデル都市化	●周辺住民や市民が集まる機能（施設） ・スーパーマーケット、日用品店など日常の買い物ができる店舗 ・医療機関、大規模老人ホーム等の誘致 ・住民、高齢者や子どもなどが気軽に集い、憩える場所 ・ショッピングセンターなどの大型商業施設 ・図書館、個人病院、商業施設などの複合施設 ・市役所の街なか支所の設置 ・図書館等、歴史民俗資料館、商工会議所の移設 ★文教施設、市民プラザ的な市民活動の場と行政機関の融合施設の街中設置（町作り会社(タウンセンター)的組織の設立） ●観光客など外部から人を呼び込む機能（施設） ★海の眺望を利用した施設の建設 ★300 台規模の駐車場 ・採りたての魚介類が買える、食べられる施設（★海産物販売飲食施設） ・特産品、農林水産品を販売するなどの複合施設 ★国道 8 号線上に歩道橋を整備しアクセスする海岸展望台や安全な栈橋の設置 ・糸魚川真柏（盆栽）の美術館 ★加賀の井酒造や鶴来家を翡翠やジオパークをイメージできる中庭でつなぐ ★糸魚川海の駅(日本海に沈む夕日の見えるレストラン、観光案内所、鮮魚店、蟹屋、相馬御風資料館、駐車場) ・国道 8 号からの誘客を狙う「道の駅」 ・大規模ホテル（インバウンド、観光用） ・復興拠点として国営又は県営施設の誘致 ・大学、教育機関（研究機関） ★駅と海の間に駐車場を整備、国道の自動車と駅の鉄道利用者双方の集客 ★生活商店街、観光商店街など商店街の目的別の区分け ●景観など（施設） ★北国街道の景観として雁木通りの再生（建築協定による外壁後退、屋根・外壁等の統一） ★防耐火対策を行った賑わいのある路地 ★各被災商店街で景観研究会的な組織を立ち上げ ★歴史のある魅力を感じる防災に強い和風建築と雁木再整備（当事者が主役の復興を支援） ・車の出入りに邪魔であるため、雁木は不要。 ・雁木（和風）は好まない。（建てたい建物に合わない。） ・前面を駐車場とする場合、雁木の構造が問題。	●共同住宅・集合住宅 ・独居高齢老人など、高齢者のための共同住宅 ・高齢者だけでなく若い夫婦も住み、交流できる住宅が良い ・1 階に店舗、2 階以上が住宅の共同住宅 ★一人でも寂しさを感じない近所のコミュニティが形成されていく住宅 ★利便性の高い駅周辺に、被災された方ばかりではなく、近隣住民や市内外からの定住を促進し賑わいをつくるために、単なる集合住宅ではなく、コミュニティを保ち、多くの方が集える安全安心できる場所を備えた住宅の整備が必要。限りある土地を有効活用するためにはマンション等の集合住宅も必要。 ★戸建て住宅エリアと中高層集合住宅エリアの設定 ★中高層共同店舗。上階に共同住宅と子供の遊び場や高齢者の運動施設等の市民が集える施設を設置 ・大規模海望マンション等の誘致（大手不動産業者との連携による人口集積策） ★日本版ＣＣＲＣ（高齢者の終末居住共同体） ★居住者の増加は街の賑わいに不可欠。近隣の買物環境が整備されれば居住者は便利で商人は経営が存続し共存関係

■ 3つのまちづくり方針ごとの施策案

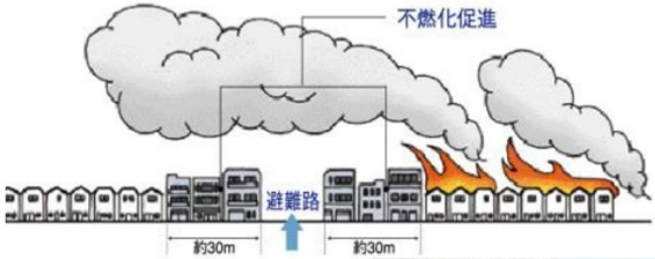


■ ①『災害に強いまち』に向けた施策案シート

施策名	①－(1) 道路の拡幅整備
概要	幅員 4 m 未満の区画道路を原則 6 m に拡幅する。 【整備前】  【整備後】  ▲道路拡幅のイメージ
効果	・緊急車両の通行確保 ・建物倒壊による道路の寸断防止と避難路の確保 ・火災の延焼防止 ・日照や風通しなど住環境の改善
課題	・道路用地の確保 ・既存建築物の移転補償 ・既存宅地の狭小化

施策名	①－(2) 防災公園や広場の整備
概要	防災上有効な公園や広場を確保し、防災備蓄倉庫等を整備する。  ▲公園のイメージ  ▲かまどベンチのイメージ ▲防災備蓄倉庫のイメージ
効果	・火災の延焼防止 ・災害時における緊急避難場所 ・一時的な救護活動や避難生活支援活動 ・住民の憩いの空間創出
課題	・公園等の用地の確保 ・除草や清掃等の日常管理

施策名	①－(3) 本町通り等における無電柱化の推進
概要	本町通りを優先路線として、無電柱化を推進する。 【整備前】  【整備後】  ▲電線類地中化のイメージ（牧之通り：新潟県南魚沼市）
効果	・車両や歩行者の通行空間確保 ・電柱倒壊や電線破損の危険防止 ・電柱倒壊による道路閉塞の回避 ・災害時における情報通信回線の確保 ・街なみ景観の向上
課題	・整備費用 ・地上機器（変圧器等）の設置スペース

施策名	①－(4) 本町通り沿道の延焼遮断帯の形成（建築物の不燃化推進）
概要	本町通り沿道を延焼遮断帯とするために、防火・耐火性能を有する建替えを促進する。  ▲沿道遮断帯のイメージ
効果	・大規模火災の延焼防止 ・緊急輸送路、避難路としての利用
課題	・建築費用の増大 ・建築のルールづくりと合意形成 ・糸魚川らしい街なみとの調和

施策名	①－(6) 消火栓や防火水槽の充実
概 要	消火栓と防火水槽の整備計画を策定し、消火栓の新設や更新、防火水槽の増設等を検討する。   (神戸市) (金沢市) ▲公園やポケットパークに整備された防火水槽（埋設）のイメージ
効 果	・ 火事の延焼拡大防止 ・ 耐震性防火水槽による地震火災への対応 ・ 防火防災意識の向上
課 題	・ 整備用地の確保 ・ 水道整備事業との調整

施策名	①－(8) 初期消火資機材の普及
概 要	簡易消火設備やボール型消火資機材、簡易スプリングローの普及を検討すると共に、スタンドパイプ消火資機材や消火器ボックスの設置検討、消火栓ボックスの配備計画の見直しを行う。   スタンドパイプとホース 消火栓に差し込む   スタンドパイプとホースをつなぐ 放水開始 ▲スタンドパイプ消火資機材の例（使用方法）
効 果	・ 初期消火の迅速化 ・ 防火防災意識の向上
課 題	・ 住民による資機材取扱い訓練 ・ 住民による自営消防組織の運営

施策名	①－(7) 消火水利としての雨水幹線・海水の活用
概 要	奴奈川雨水幹線における、せぎ板や取水箇所を増設と海水を取水する方法の検討も行う。  ▲みいちゃん通りで暗渠となっている奴奈川用水
効 果	・ 長時間にわたる消火水利の確保
課 題	・ 雨水幹線を利用する場合は、用水委員会との協議 ・ 海水を送水する場合は、車両（スーパーポンパー）の配備 ・ 海水を使用する場合は、機器等の減損や破損

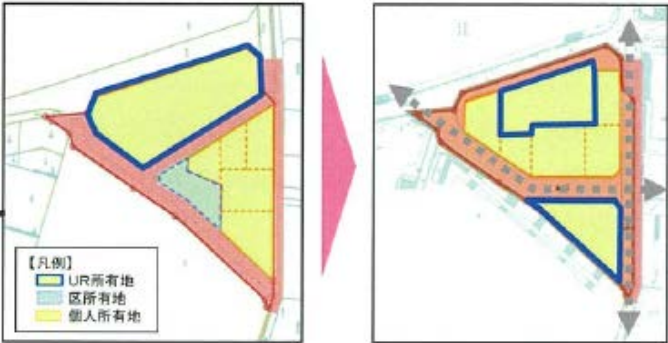
■ ②『賑わいあるまち』に向けた施策案シート

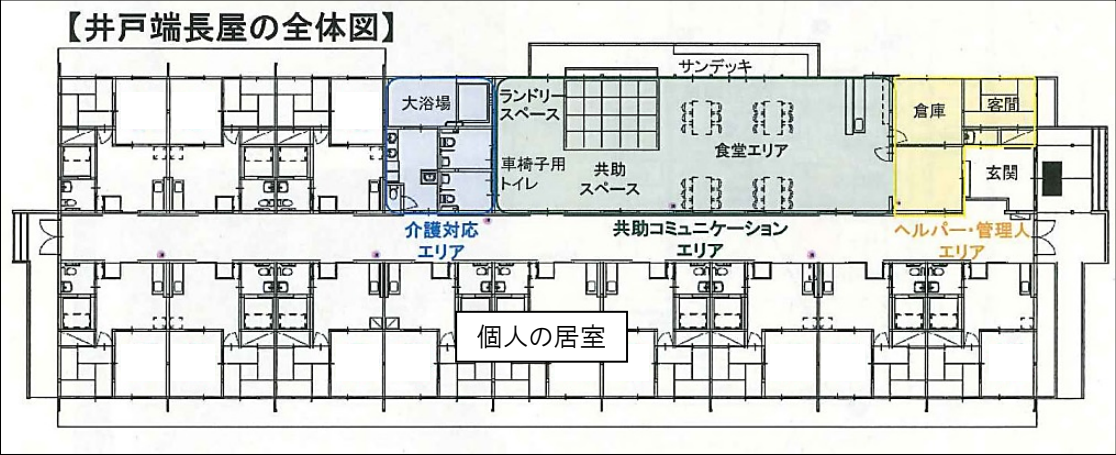
施策名	②－(1) 新たな賑わい創出拠点のための土地確保と拠点施設等の整備
概要	糸魚川市の中心市街地の賑わいを高めるため、新たな賑わい創出拠点のための土地を確保し、施設整備等を図る。 今回の駅北大火の記録を残し、後世に伝える防災まちづくり活動拠点としての機能を持たせることも想定。  ▲賑わい創出拠点整備のイメージ(御殿堰：山形県山形市)
効果	・中心市街地全体への回遊性向上 ・防災まちづくり活動や災害時の支援活動拠点
課題	・施設用地の確保 ・持続可能な施設内容や運営手法の検討 ・整備主体と管理運営主体の検討 ・民間と公共の連携及び役割分担等の明確化

施策名	②－(5) 道のような広場(道広場)の整備	…新潟県からの提案
概要	歩行者動線上に歩行者専用通路を兼ねた広場を整備することで、多機能・多用途・安全で開放的な賑わい空間の創出を図る。   道広場のイメージ(旭川平和通買物公園：北海道旭川市)▶	
効果	・地域の活動と交流の拠点 ・情報発信やイベント開催 ・まち歩きなどの回遊拠点	
課題	・施設用地の確保 ・管理運営主体の検討 ・地域と公共の連携及び役割分担等の明確化	

施策名	②－(3)・(4) 本町通り沿線での街なみ景観の形成・雁木の再生
概要	本町通りにおいて雁木を活かした景観形成を図る。 ・雁木の再生 ・無電柱化の促進 ・建物の意匠統一 ・歩道や車道の美装化  ▲沿道建物セットバックと雁木の再生のイメージ (牧之通り：新潟県南魚沼市)
効果	・地域に対する愛着の醸成 ・商店街としての魅力向上
課題	・住民の発意による主体的な合意形成 ・景観形成に向けたルールづくり ・雁木や意匠統一のための費用負担

■ ③『住み続けられるまち』に向けた施策案シート

施策名	③－(1) 道路拡幅や敷地再編による居住環境整備
概要	・道路の拡幅と敷地再編を併せて行うことにより、道路幅員の確保と整形な宅地形状の両立を図る。また、間口が狭く奥行が長い宅地などについても敷地再編を行うことで、土地利用を促進する。  ▲敷地再編のイメージ
効果	・整形な宅地形状による土地利用の効率化 ・既存不適格建築物の解消 ・被災地域内での再建促進
課題	・道路拡幅や敷地再編に係る地権者の合意 ・敷地再編に伴う地権者負担

施策名	③－(2) 公的住宅など多様な住宅の供給 ③－(3) 高齢者が安心して住み続けられる各種サービス等の充実
概要	被災高齢者が、住み慣れた場所で安心して暮らし続けるために、一堂に会して食事がとれ食堂や団らんの場（井戸端）などの共助スペースをそなえた公営住宅の整備と、通院や買い物支援サービスなどの取組を併せて実施することを検討する。  共有スペース 食堂エリア  屋食の様子  個人の居室  ▲高齢者共同住宅のイメージ (福島県相馬市 井戸端長屋)
効果	・被災地の人口確保 ・被災高齢者の孤立解消とコミュニティの形成 ・災害時における支援活動拠点としての活用
課題	・施設用地の確保 ・施設の管理運営主体の検討 ・サービス提供主体の検討

まちづくり方針ごとの施策案の展開図

